

平成25年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
学校名 (生徒数)	ほっかいどう ほくたてりょうほく こうとうがっこう 北海道 函館稜北高等学校 (477人)		

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：〒041-0802 函館市石川町181番地8

電話番号：(0138) 46-6235

研究内容等を掲載しているウェブサイトのURL：<http://www.hakodateryouhoku.hokkaido-c.ed.jp>

【研究成果のポイント】

- 研究課題番号：4 高等学校
- 研究対象教科等：総合的な学習の時間
- 研究のキーワード：思考ツールの活用，協同的な学び合い，言語活動の充実，望ましい人間関係の構築，21世紀型学力の育成
- 研究成果のポイント：
 - ①「総合的な学習の時間」における，思考ツールを活用した調べる・まとめる・発表する等の学習指導の在り方
 - ②21世紀型学力を育成するための各教科・科目における協同的な学び合いの在り方
 - ③生徒アンケートによる，①や②の学習効果の把握

【研究の目的，研究内容】

(1) 研究主題

思考ツールを効果的に活用しながら協同的に学び合うことで思考力や表現力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画及び指導方法の研究

(2) 研究主題設定の理由

学力向上の取組の柱として「総合的な学習の時間」における思考力や表現力等の育成を位置付け，探究活動や思考ツールの活用法の習得，小論文作成，プレゼンテーション等を実施してきた。それらの成果を踏まえ，生徒の思考力や表現力等を一層伸ばさせる「総合的な学習の時間」の指導計画及び指導方法の改善・充実に図るとともに，各教科・科目の指導方法の改善・充実に結び付けることを目的として，研究主題を設定した。

(3) 研究体制

各学年団から2名ずつ選出し構成する「総合学習委員会」が主体となって，「総合的な学習の時間」の指導計画及び研究計画を立案し，HR担任及び副担任が分担して授業を行い，研究を推進する。

また，「総合的な学習の時間」と各教科・科目での学習との関連に関しては，各教科から委員を選出し，学力向上等の方策を推進するための「Wisdom プロジェクト委員会」が中心となって研究計画を立案し，研究を推進する。

(4) 1年間の主な取組の経過

平成25年度	6/ 4 校内研修会(指定事業内容についての説明及び講義)
	6/27 校内研修会(思考ツールの活用等について，教育課程調査官の講演及び協議)
	8/28 研究授業(数学グループ学習の授業参観と協議)
	9/24 研究授業(英語・数学の授業参観)
	校内研修会(教科での思考ツールの活用等について，教育課程調査官の助言及び協議)
	10/ 7 研究授業(数学・総合学習の授業参観及び協議)
	10/23 広島県立安西高等学校の視察(協同的な学び合いについての視察)
12/ 5 校内研修会(視察研修報告・アンケート結果報告・協同的な学び合いに関する理論と実践についての研修)	

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①研究内容

- ・生徒に「総合的な学習の時間」の取組の全体像や学習のプロセスを理解させながら，思考力や表現力を育成するための指導計画や指導方法の改善・充実を図るとともに，「総合的な学習の時間」と各教科・科目の学習との関連性を検証する手立てを研究する。

②研究方法

- ・「総合的な学習の時間」の全体計画や学習目標を図解するなどして，生徒が学習の全体像や学習のプロセスを見通せる資料の作成について研究する。
- ・「総合学習委員会」を中心に様々な思考ツールを研究するとともに，生徒を，目的に応じた思考ツールを活用した探究的な学習に取り組ませる。
- ・「総合的な学習の時間」で習得した思考ツールや協同的に学び合う学習を各教科・科目等での学習に取り入れる。

③工夫点

- ・各教科・科目において協同的な学び合いを取り入れた授業を実践し，授業後にアンケートを実施するなどして，指導方法の検証を行った。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果

- ・「総合的な学習の時間」において，協同的な学び合い活動の導入，思考ツールやICTの活用，小論文の論理を構築する作業やプレゼンテーション活動の導入を通して，考える方法や伝える方法を習得させるための3年間を見通した指導計画を構築し，実践することができた。
- ・生徒によるアンケートにおいて，8割以上の生徒が，「思考ツールを活用することにより，自分やグループの考えや発想が広まった」と回答し，9割の生徒が，「協同的な学び合いを行うことにより，学習内容について考えが深まった」と回答するなど，生徒の思考力・判断力を高めることができた。
- ・教科・科目において思考ツールを活用したことにより，生徒の活躍の場面を増やすことができ，協同的な学び合いを取り入れたことにより，学習内容の定着度を高めることができた。

(2) 研究成果の意義等

- ・3年生が自己推薦文を作成する際に，自主的に思考ツールを活用する場面がみられるなど，考え方を整理するための思考ツールを，全校体制で計画的に活用することは，生徒の生きる力を育む上で，大きな意義がある。
- ・協同的な学び合いにより言語活動を充実させることは，生徒の思考力を高めることにつながり，他者と協力して問題を解決する力などの21世紀型学力の育成に有用である。
- ・公開授業などを通して，近隣の高校や中学校等への研究の成果を還元することは，地域の教育活動の充実に大きな意義がある。

(3) 指定期間終了後の取組

- ・協同的な学び合いに必要なスキルを計画的かつ確実に身に付けさせることができるよう，総合的な学習の時間の指導計画や指導方法の見直しを図る。
- ・教科・科目における協同的な学び合いを一層充実・発展させ，探究する力や他者と協力して問題を解決する力など，21世紀型学力の育成を推進する。
- ・教員の指導力向上に向けた研究授業を継続し，本校の授業評価システムを効果的に活用して，一層の授業改善を図る。